

平成18年度 自己評価シート

江津市立高角小学校

A 90%以上、B 70~90%、C 50~70%、D 50%以下

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策	
					達成状況	評価	考察	評価		
① 教育課程・学習指導	教育課程の編成実施	学校教育目標や教育方針を共通理解し、適切な教育課程を編成・実施する。	学校教育目標や教育方針を全体計画、年間計画に具現化する。	各教科等の年間授業時数を確保する。	計画通り、授業が実施されている。	B	・今後も計画通り進めていってほしい。	B	引き続き、月ごとの授業時数の集計を担当が行い、教務部でチェックし、週案等で調整修正していく。	
		学校教育目標や教育方針のもと、全教職員が自己目標を持って取り組む。	教員評価シートに、自己目標を設定する。	教員評価の自己目標がB判定以上である。	全員が、B判定以上である。	B				
	夢いっぱい の学習指導・授業の充実	生活科を核として授業の改善と内容・質の向上を図る。	講師を招いて、授業研究を行い教員の指導力の向上を図る。	授業が楽しいという児童80%をめざす。	保護者アンケート77%、児童アンケート89%の結果である。	B	・授業が楽しいという児童80%以上をこれからもめざしてほしい。	B	・少人数指導は、児童の実態や教材の特性から、指導方法を工夫していく。 ・年間指導計画に地域の人材や施設の活用等を具体的に明記する。	
		少人数指導やT・T等の個に応じた指導を工夫し分かる授業づくりに努める。	児童一人一人の実態を分析し、個の能力・適性に応じた指導を行う。	授業がわかりやすいという児童80%をめざす。	保護者アンケート77%、児童アンケート86%の結果である。	B				
		基礎的・基本的な内容の習熟・徹底を図る。	計算会、書取会の充実を図る。	漢字・計算力の定着率80%をめざす。	どの学年も平均点80点以上という結果である。	A				
		地域の人材や施設などを生かした教育活動の推進を図る。	ふるさと教育の充実を図る。	全学年で地域の人材を生かした学習活動を展開する。	人材を生かした学習活動の計画実践が少ない。	C				
	喜びいっぱいの心を育てる教育の充実	音楽が学校生活に生かされる教育環境を工夫する。	朝の活動や全校集会で、日常的に歌う機会を設ける。	学習発表会の全校合唱で成果を発表する。	朝の活動に早く取り組めるようにしたため、しっかり歌えるようになった。	A	・心を育てる教育をこれからも大切にしていってほしい。	B	・学級園を学習園として活用する。 ・図書室の利用に関する指導・読み聞かせの充実を図り、読書量と質を向上させたい。	
		教室や廊下、学級園等の教育環境の整備に努める。	教室や廊下、学級園等の教育環境整備の計画を立てる。	教室や廊下の掲示の工夫、中庭の改修、学級園での栽培を行う。	中庭にあずま屋を改築し、児童の憩いの場となっている。	B				
		道徳実践力の向上に努め、豊かな心の育成を図る。	豊かな体験活動に根ざした道徳授業の充実を図る。	道徳の授業研究と参観日での授業公開を実施する。	10月に性教育、2月に人権教育を中心に、道徳の授業公開を実施した。	B				
		読書活動の推進のための時間の確保や環境整備等の工夫をする。	朝読書の充実を図るとともに、図書館の整備を図る。	1~3年=月5冊、4~6年=月3冊以上の読書ができるよう指導する。	読書量の個人差が大きい。朝読書は、集中して取り組んでいる。	B				
	② 生徒指導	元気いっぱいの生徒指導の充実	学校行事や児童会活動等を通して、児童に自己指導力や人間関係能力を育てる。	学校行事や児童会活動等のねらいを明確にした計画を立てる。	毎月児童集会を実施し、各委員会の活動紹介等行う。	計画的に、児童集会と活動紹介が実施できた。	B	・元気いっぱい思いやりのある子どもをこれからも育てていってほしい。	B	・放送や掲示板を活用し、日常活動の充実を図る。 ・不登校等の個別の支援を必要とする子への組織作りを図る。 ・事例研究会や外部講師を招いた研修会を充実させる。 ・安全パトロールの充実を図る。
			仲間づくりを推進し、向上心を持った集団を育てる。	互いを認め合い、協力して向上しようという学級づくりをする。	アンケート調査により、「学校は楽しい」児童を80%以上にする。	89%の児童が学校は楽しいと答えている。	B			
児童理解に努め、個に応じた指導に取り組む。			校務分掌に、教育相談、セクハラ相談係を設け、教育相談の全体計画を見直す。	定期的に教育相談週間を設け、児童理解に努める。	84%の児童が、先生が自分のことを理解してくれていると感じている。	B				
社会におけるマナーやルールを守る態度を育てようと努める。			学期ごとに、「あいさつ、廊下を守る態度を育てよう」と努める。	「あいさつ、廊下の歩行、スリッパそろえ」ができる児童を80%以上にする。	あいさつは、85%の児童ができるようになった。	B				
安全指導の徹底を図り、児童の自己管理能力の向上を図る。			安全指導の全体計画を見直す。	防犯訓練、避難訓練、交通安全教室等を実施する。	警察等と協力し、計画的に実施できた。	B				

平成18年度 自己評価シート

江津市立高角小学校

A 90%以上、B 70~90%、C 50~70%、D 50%以下

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
管全安	安全管理	安全点検を計画的に実施し、行き届いた改善をする。	毎月15日に複数の教員で安全点検を実施する。	点検結果をもとに、危険箇所を改修を実施する。	委員会と連携し、改修を実施した。	B	・保護者や地域の人達と連携を図って、不審者対策に気を配ってほしい。	B	・保護者・地域の人たちと連携を図り改修の協力を得るよう努力する。
	危機管理体制	危機管理意識をもち、緊急時に、全職員が共通理解を図り対応できる。	実践的な防犯・避難訓練を実施する。	実践的な訓練により、危機管理マニュアルの改善を行う。	警察等と協力し、計画的に実施し見直しを行った。	B			
管健保	学校保健	心身ともに健康的な生活を送るための習慣・態度・知識を身に付けさせる。	生活習慣に関する学習を行う。	休憩後、給食前、掃除後の「手洗い」ができる児童を80%以上にする。	86%の児童が、手洗いができた。	B	・コメント…特になし	B	・石けんによる手洗いの有効性を意識づける保健指導を行う。 ・食のノートの計画的な実施を主任が点検する。
	学校給食	食に関する望ましい習慣・態度・知識を身に付けさせる。	食の自己管理能力の育成を図る。	食のノートの活用や栄養士とのTTの授業を行う。	栄養士とのTT授業を計画的に実施した。食のノートの活用が十分と言えなかつ	C			
育教	特別支援教育 人権教育	命の大切さや人権を尊重する態度を育てる。	同和教育を核とする人権教育を推進する。	人権教育の研修や参観日での授業公開を実施する。	研修報告や参観日に保護者への公開授業を実施。	B	・コメント…特になし	B	・特別支援教育コーディネーターを中心として、研修会の内容の工夫をしたり、計画的に実施する。
		児童一人一人のニーズに対応した支援の工夫したか。	個別指導計画と教育支援計画を作成する。	j児童の実態に即した個別指導計画と教育支援計画を再考する。	にこにこサポーターを中心に、児童の実態にあった授業を行った。	B			
		保護者・地域、関係機関との連携を図る。	保護者・地域、関係機関との連携体制を作る。	学級便り、学校便り等で特別支援教育、人権教育の啓発を行う。	学級便り等により、いじめ・命の大切さに関する取り組みを知らせた。	B			
⑥ 組織運	学校運営 校務分掌	教職員の適性や能力に応じた校務分掌の分担をし、円滑な学校運営を図る。	校務分掌の見直しと教職員の適材配置をする。	校務分掌等の業務が十分機能する組織にする。	分掌間の横の連携があまりとれず、十分機能しなかつた。	C	・評価できない		・企画会を充実させ、管理職と各主任間の連絡調整を図り、組織的な学校運営に努力する。
	服務規律	教職員の厳正な服務規律の確保に努める	服務規律確保に関する研修計画を作成する。	年3回計画的に研修を行う。	通知通達、新聞記事等を使って随時行った。	B			
	学級経営	学級経営の充実に努める	学級経営のPDCAサイクルを生かす。	学級経営案を各学期ごとに反省をし、修正改善を行なう。	反省に基づいて、改善を行った。	B			
	経理	学校経理の厳正な執行・管理を徹底する。	経理の適正な処理と予算の効率化を図る。	学期ごとに、執行状況を確認する。	適正な処理が行われた。	B			
	情報管理	個人情報の保護・管理を徹底する。	個人情報保護に対するマニュアルを作成する。	管理職によるチェックを徹底し、各職員・学校のパソコン内の情報を集中管理する。	稟議によるチェックをきちんと行い、担当がパソコンの情報管理を行った。	B			
修研⑦	校内研修 校外研修	教職員の指導力の向上と人材育成の推進を図る。	校内研修は、計画的・積極的にできているか。	全教員が計画的に授業公開する。	全教職員が授業公開したが、計画性が足りなかつた。	C	・評価できない		年度当初に授業研究、校外研修、報告会等の計画をしっかりと立て、計画的に研修を推進する。
			経験・職能に即した各種研修への参加を促す	全教員が、計画的に研修、研究会等に参加する。	全教員が参加できなかった。	B			
			校外研修の成果が、校内の教職員に伝達され生かされているか。	研修会等に参加した場合、復命書の回覧、職員会での報告を行わせる。	研修の報告をする場が、確保できなかった。	C			

平成18年度 自己評価シート

江津市立高角小学校

A 90%以上、B 70~90%、C 50~70%、D 50%以下

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
地域	情報発信	保護者や地域への情報発信を積極的に行う。	学校便りの校区内全戸配付や学級便りにより、情報を計画的に発信する。	保護者アンケートで、70%以上の肯定的評価を得る。	保護者の約89%が、わかりやすいと答えた。	B	・評価できない	・保護者と共に育てていく姿勢を持つとともに、学校便り、学級だより等による広報活動を迅速に行う。 ・年度当初に、幼・小・中・高と交流について、連絡調整する。	
	協力体制	幼・保・中・高校との連携を図る。	意見交換や情報交換する機会を設定する。	授業交流や連絡会を年数回実施する。	年1回連絡会を幼・中とで、年1回高校と授業交流をおこなった。	C			
		教職員は、PTA活動や地域の活動・行事に積極的に参加したり協力したりする。	PTA活動や地域の活動・行事の年間計画の情報を得る。	教職員は、PTA活動や地域の活動・行事に年2回以上参加する。	保護者の約78%が、協力的と答えた。	B			
施設	効果的な活用	施設・設備が、教育の場でよく活用できているか。	余裕教室、特別教室の有効活用する。	全ての教室が有効活用されている。	有効活用がされているが、余裕教室の整理が必要	B	・評価できない	・学期ごとに余裕教室の整理整頓に努める。 ・計画的な備品購入を行い、充実に努める。	
		教材・備品の購入等は、計画的・適正に行われているか。	備品の点検・補充を、計画的に実施する。	国の基準数の備品が備えられている。	備品の年次のな補充が必要。	C			

※1 江津市の共通項目は、領域部分における次の4項目とする。

- ① 確かな学力の育成 ② ふるさと教育の推進 ③ 安全対応能力の向上 ④ 学校間の連携

※2 評価項目と領域との関連は、各学校の重点目標により異なってよい。

※3 この評価シートは基本形であり、学校によって項目等の追加・修正を行って使用する。

※4 評価の例は、次のように考えられますが、評価指標・学校の実状等に合わせて変更して下さい。

A 90%以上、B 70~90%、C 50~70%、D 50%以下 又は A 良い、B まあまあ良い、C あまり良くない、D 良くない